

基本施策8 生涯学習社会の構築

施策の柱18 生涯にわたる多様な学びを推進する

取組39	多様な課題に対応した学習機会の充実	担当課	生涯学習課
------	-------------------	-----	-------

○地域の課題解決に向けた「課題解決支援講座」など、社会情勢の変化に即した多様な学習機会を提供します。

令和5年度の取組実績	・富岡市の課題である世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」の入場者減少などを解決するために、現代的課題解決支援講座（地域課題）を実施した。
5年間の成果	・地域の方々が、地域の課題や困りごとを自分たちで解決するきっかけとなる学習機会を提供することができた。
5年間の課題	・地域の抱える問題を、生涯学習の観点や交流を通じてどう解決していくのかを引き続き考えていく必要がある。また、開催した地域の関係職員等への継続した人材育成等支援も行っていく必要がある。

○県内各地で開催される講座や講師人材のデータベースなど、県民ニーズに対応した学習情報を提供します。

令和5年度の取組実績	・群馬県生涯学習情報提供システム「ぐんま県民カレッジWebページ」を利用し、県内各地で開催される講座や講師情報を提供した。
5年間の成果	・システムのリニューアル（「ぐんま県民カレッジWebページ」）により、検索機能の強化、スマートフォン等での操作性向上を図ることができた。
5年間の課題	・「ぐんま県民カレッジWebページ」の周知を引き続き図っていくとともに、県内各地で開催される講座やイベント情報、講師人材情報数の増加を図る必要がある。

○効果的な講座の開催や学習情報の提供を行うため、公民館や高校、大学など関係機関との連携を推進します。

令和5年度の取組実績	・公民館、大学、美術館、博物館が、群馬県生涯学習情報提供システム「ぐんま県民カレッジWebページ」を講座やイベント等の周知のために活用した。
5年間の成果	・「ぐんま県民カレッジWebページ」において、県内大学、美術館、博物館、公民館のイベントや講座の情報を一元的に提供することができ、県民の学習機会の拡大につながった。
5年間の課題	・公民館等関係機関との更なる連携、情報共有の強化を図る必要がある。

○県民の学習成果を地域で生かすことができるよう、自主企画講座の開催に関する情報発信や、講師情報の市町村への提供等を支援します。

令和5年度の取組実績	・群馬県生涯学習情報提供システム「ぐんま県民カレッジWebページ」を利用し、県内の講師情報や団体が主催する講座・イベント情報を発信した。
5年間の成果	・個人や団体が主催する講座・イベントの開催件数やボランティア講師の登録件数を増加させることができた。
5年間の課題	・「ぐんま県民カレッジWebページ」の周知を引き続き図っていくとともに、県内各地で開催される講座やイベント情報、講師人材情報数の増加を図る必要がある。

○市町村や社会教育団体等と連携し、障害のある人と障害のない人が共に学ぶ機会を充実します。

令和5年度の取組実績	・県立図書館において、アクセシブルな書籍等（視覚障害者等用の大活字本、オーディオブック、読み上げ機能付き電子書籍等）を漸次購入した。 ・市町村の担当者等を対象とした社会教育推進セミナーや社会教育実践研修において、障害者の生涯学習に関する研修を実施した。
5年間の成果	・読書に困難がある者も利用しやすい読書環境の整備など、読書バリアフリーの取組を進めた。 ・生涯学習・社会教育を担う市町村の担当者等が、障害者の生涯学習の推進や共生社会についての理解を深めることができた。
5年間の課題	・障害者の生涯学習や障害の有無に関わらず共に学ぶ機会を充実させていくためには、地域の身近な生涯学習の場である公民館等による取組の推進が必要であることから、引き続き市町村等と連携して人材育成やノウハウの共有等を行っていく必要がある。

基本施策8 生涯学習社会の構築

施策の柱18 生涯にわたる多様な学びを推進する

取組40	社会教育施設の有効活用	担当課	生涯学習課、(知)文化振興課
------	-------------	-----	----------------

○社会情勢の変化に即し、生涯学習の拠点として多くの県民に活用されるよう適切な施設運営に取り組みます。

令和5年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習センター入館者数：191,303人 市町村及び関係機関団体と連携を図り、生涯学習センターを拠点に多様な生涯学習活動の支援を行った。
5年間の成果	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習センター運営に関して、利用者の立場に立ったサービスの向上に努め、自主的な学習や文化活動を支援する「学習・交流・発表の場」として、施設の活発な活用を図ることができた。
5年間の課題	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習センターについて、高齢者から乳幼児までが利用する施設として利用者の安全確保を図りながら、引き続き施設の活性化を図る必要がある。また、設置から36年が経過し施設が老朽化しており、今後の施設のあり方について検討を進める必要がある。

○多様な県民ニーズに対応できるよう、施設職員の資質の向上及び施設・設備の計画的な更新・修繕に取り組みます。

令和5年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 群馬県公共施設予約システム操作研修を年度当初に実施するなど、職員への研修を行った。 老朽化により落下のおそれのある多目的ホールとプラネタリムの吊物の改修を実施した。また、施設劣化の状況を把握するために必要な各種設備の定期点検を実施した。
5年間の成果	<ul style="list-style-type: none"> 施設や設備の欠陥、不備等による事故の発生はなかった。 点検結果から施設の現状や問題点を捉え、修繕要望に反映し、計画的な改修及び修繕を実施した。
5年間の課題	<ul style="list-style-type: none"> 施設設置後36年が経過し補修を要する箇所が多数となっており、利用者の安全とニーズを踏まえ、計画的な補修や整備が必要がある。 多様な県民サービスに対応できるよう、引き続き施設職員の資質向上を図る必要がある。

○ぐんま天文台では、大型望遠鏡による天体観察などの本物体験の提供と、きめ細やかな教育普及活動を通して、天文・自然科学への興味・関心を高め、天文学のすそ野拡大を推進します。

令和5年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 入館者数：19,672人 引き続きオンラインも活用しながら天文授業サポートや出前講座を積極的に実施し、学校現場や地域への天文学の普及に貢献した。 YouTubeチャンネル「tsulunos」を活用して流星群のライブ配信を行った。 大型望遠鏡の制御系改修、および、台内ネットワークのリプレースの検討を進めた。
5年間の成果	<ul style="list-style-type: none"> 学校現場や地域に赴いて天文学のすそ野を広げるとともに、動画配信等を活用することにより、多様な学習機会を提供できた。
5年間の課題	<ul style="list-style-type: none"> 動画配信等を活用した積極的な広報、PRを行う必要がある。 来館者の安全確保に配慮し、施設設備や観測機器の適正な維持管理と計画的な修繕が必要である。

○ぐんま昆虫の森では、身近な昆虫との触れ合いや自然体験を重視したプログラムの提供を通して、生き物相互の関わり合いや、生命の大切さ、自然環境に対する理解を深められるよう取り組みます。

令和5年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 入園者数：109,640人 季節展や特別展、飼育講座等を実施した。 効果的な学校利用を促進するための教育補完施設としての機能・役割を維持した。（小学校185団体、幼稚園・保育所90団体利用） 県民参加による施設づくりを実施した。（解説や体験指導ボランティア人数105人、延べ活動人数718人）
5年間の成果	<ul style="list-style-type: none"> 自然体験など様々な体験活動の場を提供することにより、子どもたちの自然環境に対する理解を深めることに貢献できた。
5年間の課題	<ul style="list-style-type: none"> 施設の特徴を生かした、季節展や特別展等の主催事業プログラムの更なる充実を図る必要がある。 出前講座の開催等、所外にも積極的に出向き、県民に自然体験活動の機会を提供していく必要がある。 インターネットを活用した情報発信・施設広報の充実を図る必要がある。

○近代美術館では、日本と西洋の近・現代美術を中心に幅広い美術品の収蔵・展示、優れた美術の鑑賞機会を提供する企画展の開催や、教育普及活動の充実などに取り組みます。	
令和5年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・入館者数：53,107人 ・教育普及事業参加者数：8,237人 ・来館者満足度：98%
5年間の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・展示事業では、コレクション展示のほか、企画展示を年3～4本開催し、入館者増に努めた。 ・教育普及事業では、学校団体を多数受け入れたほか、出張授業を行った。また、こどもアートツアー、こども+おとな+夏の美術館、美術館アートまつり、企画展示に関する講演会等、さまざまな事業を行った。 ・フェイスブック、ツイッター、ホームページをはじめ、美術館ニュースの発行などにより情報発信を行った。 ・将来の作品収集や企画展示につなげるため、調査研究を行った。
5年間の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、展示・教育普及事業等の質の向上、来館者数の維持、来館者満足度の水準確保に努める必要がある。

○館林美術館では、「自然と人間」をテーマに作品を収集・展示するとともに、学校教育との連携、幅広い年代層に向けた講演会やワークショップなどの教育普及事業などに取り組みます。	
令和5年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・入館者数：62,587人 ・教育普及事業参加者数：5,682人 ・来館者満足度：98%
5年間の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「ピカソ展」(令和元)、「フランソワ・ポンポン展」(令和3)といった近代美術の展覧会や、「安野光雅」(令和2)、「かこさとし」(令和4)、「佐藤健寿展」(令和5)など人気の高い作家の展覧会により、従来の来館者に加え、より幅広い層にまで間口を広げることができた。またSNSを活用した広報を充実させたことから、当館の活動の周知が進むとともに建築への関心が高まり、近隣地域ばかりでなく、東京などからの来館者増につながった。広報や普及事業を通じて、館林市や鉄道会社、地域の学校や各種団体との連携がより深まった。
5年間の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な修繕を行い、LED化を実施するなど、施設の魅力を保ちながら、引き続き多くの来館者に満足してもらえる内容の事業を模索したい。また、展示に新鮮味を加え、美術館の魅力をより高めるために、購入等により新規作品の収蔵が望まれる。

○歴史博物館では、東国文化の中心であった群馬の特色をアピールするとともに、展示室でのタイムリーなトピック展示や企画展の開催、小・中学校の歴史教育での利用促進を行います。	
令和5年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・入館者数：88,041人 ・教育普及事業参加者数：40,873人 ・来館者満足度：93.7%
5年間の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・常設展示の解説コンテンツを増やし、パネル・キャプションを多言語化するなど解説の充実を図った。 ・企画展「古墳大国群馬へのあゆみ」や「温泉大国ぐんま」を開催し、来館者に群馬の魅力を広くアピールすることができた。 ・小学校のニーズに合わせた、展示見学、学習プログラム、体験プログラムを提供し、満足度の高い学校団体利用を実施できた。
5年間の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・来館者の反応を確認しながら、常設展・企画展の内容を充実させる。 ・今後も学校との連携を図るとともに、学校団体利用の促進のため、より有効な広報活動を進めていく。

○自然史博物館では、地球の誕生から現在まで約46億年の生命進化の歴史や本県の豊かな自然をジオラマ等で紹介するとともに、観察会など各種教育普及事業等に取り組みます。	
令和5年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・入館者：178,995人 ・教育普及事業参加者数：29,576人 ・来館者満足度：100%（常設展示）
5年間の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・第66回企画展「宇宙への挑戦」を開催した。（会期 7月9日～9月11日、9月17日～11月20日。時間指定、人数制限による事前予約制） ・展示点数：368点（うち当館所蔵標本74点）、期間中観覧者数：74,700人、満足度：96%
5年間の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症再拡大時にも来館者に満足してもらえる事業づくりを進める。 ・SNSやデジタル技術を活用し、広報活動・イベントの充実を図る。

○土屋文明記念文学館では、本県ゆかりの文学資料の収集・研究、魅力ある企画展や文学講座の開催、学校と連携して短歌を中心とする文学に関する教育普及活動などに取り組みます。	
令和5年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・観覧者数：10,447人 ・教育普及事業参加者数：26,328人 ・来館者満足度95%以上 ・展示・講座の内容 第119～121回企画展 計3回 観覧者数：9,546人 土屋文明記念文学講座 計2回 参加者数：210人 ・教育普及事業（抜粋） 「歌人が学校に！」（短歌教室）11校（小学校6校、中学校5校）、児童生徒526人 学校団体受入 10校（小学校1校、中学校3校、高校5校、大・専門1校）、児童生徒のべ91人 文明先生推し活講座 大学2校、のべ17人【R5新規】
5年間の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・短歌をはじめとする様々なテーマで開催する「土屋文明記念文学講座」、土屋文明解説パンフレット作成、文明先生推し活講座開催など、土屋文明顕彰事業を進めることができた。 ・夏の展示を、子どもや家族で楽しめる企画にしたことで、「あんびるやすこ作品展」は歴代7位、「ようこそ絵本の世界へ」は歴代8位と、大きく集客に繋がった。 ・アクセシビリティの観点から、音声ガイド「ポケット学芸員」を常設展示に加え企画展示にも採用した。 ・tsulunosでの動画公開やSNSでの情報発信など、Webを活用して県民の皆様楽しんでいただけた。 ・HPからイベント申込できる体制を整えたことで、参加申込の増加に繋がった。
5年間の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度から企画展の回数が4回から3回に減少したが、幅広い世代に訴求する魅力的な展示構成を心がけて観覧者数を確保したい。 ・企画展だけでなく常設展も観覧してもらえるよう、より魅力ある展示にリニューアルしていく必要がある。

基本施策8 生涯学習社会の構築

施策の柱18 生涯にわたる多様な学びを推進する

取組41 読書活動の充実と県立図書館の機能強化 担当課 義務教育課、高校教育課、生涯学習課

○全ての県民の読書活動を支援するための環境整備を推進します。	
令和5年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 相互貸借システムの運営を行った。(利用回数: 10,955回) 図書館未設置町村の公民館図書室に対する図書一括貸出を行った。(利用冊数: 3,896冊) 円滑な物流のための市町村支援協力車の定期的な運行・居住地返却を実施した。 図書館横断検索システムの運営を行った。(利用回数248,176回) 電子書籍を購入した。(784冊)
5年間の成果	<ul style="list-style-type: none"> 図書一括貸出等の実施により、人口の少ない地域住民へ利用可能な図書数を増やすことができた。 図書館横断検索や相互貸借システムの運営により、県内各地の所蔵資料を幅広く利用することができ、図書館の利用が促進され、県民の読書環境が向上した。 令和5年1月より電子書籍サービスを開始した。
5年間の課題	<ul style="list-style-type: none"> 図書館横断検索や相互貸借システムの周知を徹底し、利用を促していく必要がある。
○子どもが自主的に読書活動を行うことができるよう、学校、家庭、地域で連携した取組を進めます。	
令和5年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 全国高等学校ビブリオバトル2023群馬県大会を開催した。(参加者: 97人)
5年間の成果	<ul style="list-style-type: none"> 全国高等学校ビブリオバトル群馬県大会の開催により、県民に高校生の読書活動について関心をもってもらうことができた。
5年間の課題	<ul style="list-style-type: none"> 学校や地域の図書館におけるビブリオバトル等イベントを通して、引き続き子どもの自主的な読書活動を促していく必要がある。
○県民にとって身近な市町村立図書館(室)の充実を図るため、図書館ネットワークの中核館として県立図書館による支援を実施します。	
令和5年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 相互貸借担当者会議を対面および動画配信で開催した。(参加者: 85人) 【群馬県図書館協会事業】 第20回群馬県図書館大会を対面および動画配信で開催した。(参加者: 129名) 図書館(室)職員初級研修を対面および動画配信で開催した。(参加者: 133人) 図書館(室)職員実務研修を対面および動画配信で開催した。(参加者: 103人)
5年間の成果	<ul style="list-style-type: none"> 第20回群馬県図書館大会と実務的な内容を学ぶための研修会を、対面および動画配信により実施し、県内公共図書館員等に学ぶ機会を提供できた。
5年間の課題	<ul style="list-style-type: none"> 県内の公共図書館・図書室、大学図書館、学校図書館のネットワーク化を引き続き推進していくとともに、図書館職員の資質向上及び図書館サービスの向上を図っていく必要がある。
○県立図書館における県民の課題解決につながる高度な専門の情報サービス(レファレンスサービス)を提供する機能を充実します。	
令和5年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 高度で専門的な調査・研究に対応するため、新たに488冊のレファレンス資料を受入・整備した。 通常のWeb検索では入手できない情報が手に入る商用データベースを提供した。 職員のスキルアップを図るため、国立国会図書館の遠隔研修動画を活用した研修等を実施した。 SNS(X)を活用して、調査相談事例を紹介する記事をアップした。
5年間の成果	<ul style="list-style-type: none"> 県立図書館の調査相談カウンターで直接受け付けるレファレンスサービスのほか、県内市町村図書館や学校図書館等で解決できない難解・高度なレファレンスを代わりに調査する協力レファレンスにも注力し、計296件受付・回答した。 通常のWeb検索では入手できない情報が手に入る商用データベースの種類を増やし、情報入手の手段を充実させた。
5年間の課題	<ul style="list-style-type: none"> 定年により経験豊富な職員が減少していく中、レファレンス技術・知識を承継し、高度で専門的な調査に対応できる職員の人材を育成する必要がある。 新型コロナウイルス感染症対応のための利用制限の影響や、インターネットを利用した様々なサービスが充実してきている社会の変化もあり、サービス利用者が減少傾向にある。

○身近な読書環境の一つとして、県立高校における学校図書館の一般開放を行います。	
令和5年度の取組実績	・地域の状況や学校の実情を十分考慮しながら学校図書館の一般開放を行った。（県立高校のうち、42校で実施）
5年間の成果	・地域に開かれた学校図書館という役割を果たし、広く県民へ読書環境を提供することができた。 ・学校図書館の設備、蔵書を公開することで、学校の教育活動の理解につながった。 ・コロナ禍により一般開放が難しい状況にあったが、実施校や利用者数はR3の1,021名からR5は3,453名まで回復している。
5年間の課題	・学校関係者以外の方が来校するため、感染症対策も含め、生徒の安全確保について課題がある。 ・多様な生徒が常時利用しており、その状況を踏まえた上で対応する必要がある。

○司書教諭や学校図書館職員の専門性を高め、児童生徒が興味・関心を持って積極的に利用するような学校図書館づくりを推進します。	
令和5年度の取組実績	・図書館司書を対象とした「図書館連携推進フォーラム」をオンラインで開催した。 ・12学級以上の公立小・中学校における学校司書発令状況が100%であった。 ・学校図書館研修会を対面および動画配信で開催した。（申込者：128人） ・学校司書のための学校図書館活用講座を対面にて開催した。（申込者：22人）
5年間の成果	・「学校図書館充実事業」「図書館連携推進フォーラム」の開催により、公立図書館の司書と学校司書の情報交換を行うことで、それぞれの図書館の良さや連携の必要性について共有することができた。 ・司書教諭の配置により、司書教諭と学校司書とが連携を図り、学校図書館の環境整備や読み聞かせ等の読書活動を推進することができた。 ・有識者による講義や具体的な演習により、学校図書館の利活用に役立つ内容を提供することができた。
5年間の課題	・他課や公立図書館との連携を一層図り、司書教諭や学校司書の研修を充実させる必要がある。特に、勤務時間や出張旅費等の関係で、出張しにくい学校司書の研修の形を考えていく必要がある。 ・今後も、講師の選定や内容を工夫しながら、継続して研修会や講座を開催していく必要がある。

○学校図書館の「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての機能の一層の充実を図り、各教科・科目等における学校図書館を利用した指導や、日常生活における読書活動を推進します。	
令和5年度の取組実績	・「図書館連携推進フォーラム」において、多くの子供が利用したくなる図書館環境を工夫している先進校の学校図書館司書を講師に招き、取組を紹介した。 ・県教委HPに過年度実践校の学校図書館年間活用計画、授業実践、実践発表資料を掲載した。
5年間の成果	・「子供の読書活動優秀実践校」の取組をまとめ、「子ども読書の情報館」サイトを通して情報提供することで、好事例を県内各機関へ周知することができた。 ・「読書センター」としての役割だけでなく、「学習センター」「情報センター」として学校図書館を活用する授業実践が見られるようになってきた。
5年間の課題	一人一台端末導入の状況下で、学校図書館の機能のうち、特に「情報センター」としての機能の充実について検討していく必要がある。

施策の柱18における指標の状況、5年間の総括

指標の状況

指標		策定時		目標値	2024.4月末時点の最新値		進捗率	指標の状況に係る5年間の総括
項目	細目	数値	年度		数値	年度		
「まなびねっとぐんま」トップページのアクセス件数		58,798件	2017	73,800件	44,794件	2023	-93.3%	コロナ禍では市町村で講座が実施されなかったことによりアクセス数は下がったが、現在は徐々に回復しつつある。ただ、平成29年度から民間のカルチャーセンターの講座入力（有料）を除外したため、策定時よりアクセス数が減少したと考える。今後も、「ぐんま県民カレッジWebページ」の周知を図る必要がある。
昆虫の森、天文台の入場者数（2所の合計）		145,110人	2017	148,000人	129,312人	2023	-546.6%	新型コロナの影響により大幅に落ち込んでいた入館者数が回復の兆しを見せているが、天候の不安定要素も増えており、油断できない状況となっている。利用者の増加に向け、広報・PRの更なる強化が必要である。
県立図書館におけるレファレンスサービス件数（事柄や事実調査、文献調査等の専門的情報提供サービスの件数。利用相談（書架案内や所蔵調査）は除く。）		6,867件	2017	7,700件	4,991件	2023	-225.2%	コロナ禍以前の利用者が徐々に戻りつつあるものの、新型コロナウイルス感染症対応のために利用制限をかけた影響は大きく、また、インターネットを利用した様々なサービスが充実してきている社会の変化もあり、目標値の達成が困難であった。

5年間の総括

- ・各社会教育施設の機能を十分に活用してもらうため、対象者ごとに適した広報媒体を使い分ける等、情報発信を強化していく必要がある。
- ・県立図書館では令和5年1月から電子書籍サービスを開始した。利用促進のため、広報活動を更に推進していく必要がある。

基本施策8 生涯学習社会の構築

施策の柱19 社会教育を推進する

取組42 地域の学びを支える人材づくり 担当課 生涯学習課

○人権教育や青少年教育等、各分野における指導者の育成を進めます。

令和5年度の取組実績	・教育事務所ごとに「群馬県人権教育の基本方針」「群馬県人権教育充実指針」に基づいた人権教育を推進するために必要な事項の研修や協議を計10回実施。565名を養成した。
5年間の成果	・学習機会の提供について、コロナ禍においても内容や方法を工夫することで学習機会を確保し、地域の指導者としての人権感覚を高めることができた。学習テーマは11の人権重要課題のほか、多様な性の在り方や避難所での人権など新たな人権課題を取り上げ、社会のニーズに合わせた事業を実施することができた。
5年間の課題	・指導者養成の充実と資質の向上を図る必要がある。

○育成した指導者が、公民館や学校等地域で活躍できるよう、市町村等に働きかけます。

令和5年度の取組実績	・地区別人権教育指導者研修会において、市町村担当者に対し、指導者の積極的な活用について依頼した。
5年間の成果	・指導者の活用に関して、活躍の場の設定や指導者の意識に課題があることを市町村担当者と共有できた。
5年間の課題	・育成した指導者の活用に向け、市町村への支援について県で検討をする必要がある。

○社会教育主事、社会教育委員、市町村担当職員等、社会教育の中核となる人材の資質能力を向上させます。

令和5年度の取組実績	・県市町村社会教育主事及び関係施設職員等を対象に研修会を実施した。（参集及びオンライン併用参加者72人） ・県市町村の新任社会教育委員等を対象に研修会を実施した。（参加者120人） ・県市町村社会教育委員、生涯学習・社会教育関係団体の関係者、社会教育行政関係者等を対象に研究大会を実施した。（Web会議システムを使用したオンラインによる研修参加者181人）
5年間の成果	・社会教育主事や社会教育委員等を対象とした各種研修会において、今後期待される社会教育の役割や県内外の先進事例について、講演（オンラインを含む）やグループワークなど効果的に研修することで、社会教育の中核となる人材の資質能力の向上につなげることができた。
5年間の課題	・社会教育の推進に向けて、社会教育関係職員を対象とした各種研修がより充実した研修になるよう参集とオンラインを併用するなど、時代に合わせ研修方法や内容を工夫する必要がある。

○福祉などの社会教育に関係深い部局との連携や市町村における社会教育の振興を図るとともに、各社会教育関係団体の育成及び団体間の連携を進めます。

令和5年度の取組実績	・社会教育団体に対して活動の充実を図るための事業費補助を行った。
5年間の成果	・地域における社会教育活動の活性化を図るとともに、県が実施する社会教育推進上の諸施策にも積極的に協力していただいた。
5年間の課題	・会員の高齢化や新規会員の減少による団体活力の低下を防ぐ必要がある。

基本施策8 生涯学習社会の構築

施策の柱19 社会教育を推進する

取組43 青少年教育の推進

担当課 高校教育課、生涯学習課、(知)生活こども課、(知)児童福祉・青少年課

○自然体験や各種体験活動を通じて、青少年の豊かな人間性や社会性を育みます。

令和5年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県立青少年自然の家2所にて、林間学校等で利用する学校等に対し各種プログラムを提供した。 ○提供プログラム：野外炊事、キャンプファイヤー、登山、クラフト作成等 ○学校等利用団体数：117団体
5年間の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 青少年自然の家の管理運営を通して、生活体験や自然体験など様々な体験活動の場を提供してきたことで、子どもたちの「生きる力」の育成に貢献することができた。
5年間の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き、自然環境及び地域の伝統・文化等、各所の特色を生かし、各事業のプログラムの充実を図っていく必要がある。 ・ コロナ収束後、学校利用は回復傾向にあるが、青少年団体や企業利用等が十分に戻っていない。利用者の拡大に向け、広報活動をさらに広げていく必要がある。

○親子や異年齢・異世代での体験活動・集団活動を通じて、家庭や地域の教育力の向上を目指します。

令和5年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県立青少年自然の家2所にて、青少年自然体験事業を実施した。 ○親子体験活動（親子デイキャンプ、登山、星空観察会等）参加者 延べ167人 ○自然体験活動（オープンデー、出前講座等）参加者 延べ1,858人 ○宿泊自然体験活動（2泊3日程度の長期キャンプ）参加者57人
5年間の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 青少年及びその保護者を主たる対象として、様々な自然体験活動を提供してきたことで、青少年の主体性や協調性、社会性、問題解決能力等「生きる力」を育成するとともに、家庭や地域の教育力向上にもつなげることができた。
5年間の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き、学校、青少年団体等のニーズに沿った新規プログラムを開発し、提供していく。 ・ 今後も地域の社会教育力向上のため、積極的な出前講座の開催するなどし、県民に自然体験活動の機会を提供していく必要がある。

○青少年のボランティアを養成するとともに、ボランティア活動の場を提供します。

令和5年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県立青少年自然の家2所における実施 ○青少年ボランティア養成 延べ76人受講、青少年ボランティア体験 延べ210人参加 ・ (公財) 県青少年育成事業団による指定管理事業による実施 ○こどもふれあいワークショップ 16人受講、中学生・高校生交流ボランティア体験 8人参加
5年間の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア活動の心構えや留意点等について講義・演習を実施するとともに、ボランティア活動の場を提供してきたことで、社会の構成員としての規範意識や責任感、倫理観等を身に付けた青少年ボランティアを育成することができた。
5年間の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア養成では、各所の自然環境等を有効に活用し、講義・演習のプログラムについて充実を図り、社会貢献、福祉活動等への関心をさらに高め、互いに交流する地域社会づくりを促進していく。 ・ ボランティア体験では、より多くの中高生が参加しやすくするために、実施時期及び日程を検討し、紙媒体だけでなくSNS等も進んで活用した広報を行っていく。

○不登校、非行、ひきこもり等、様々な悩みを抱える青少年及びその保護者等を対象に、相談活動や体験活動を通して自立・再学習支援事業を行うほか、青少年の意欲を高め、自立を促す活動プログラムを効果的に実施します。	
令和5年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ 青少年自立・再学習支援事業（G-SKY Plan）を実施した。相談等延べ件数：752件、体験活動実施数：27件（延べ27件）、進路相談会：2回開催 ・ 学びを通じたステップアップ支援促進事業を実施した。学習相談：435人、学習支援：計60日実施、参加延べ人数84人 ・ 子ども・若者支援協議会において相談を受けるとともに、高校中退者等訪問支援事業により支援員を派遣し、青少年及びその保護者等に寄り添う支援を行った。
5年間の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個に応じた支援を継続的に行ってきたことで、復学や進学、高卒認定試験の受験等につながった利用者も見られた。また、相談活動・体験活動・学習支援等の提供を通して、当該青少年の自立や保護者への支援に資することができた。 ・ 高校中退者等に支援員を派遣し、青少年及びその保護者等に寄り添った支援を行うことが出来た。
5年間の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路相談会への参加者は増加してきたが、参加が少ない市町村もまだある。春に全県の教育支援センター・教室（旧適応指導教室）を訪問しているが、進路相談会前に重点地域を決め、再度訪問するなどして周知を図っていく必要がある。 ・ 支援を必要とした若者が本事業につながるよう、今後も広報活動を充実させ事業周知に努めるとともに、関係機関が連携した切れ目のない支援を行っていくことが必要である。

○青少年関係団体の活動の活性化を通じた青少年健全育成を目指し、県内全域で活動する青少年団体との連携や団体への支援を行います。	
令和5年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会教育（青少年教育）関係団体事業補助金を実施した。（青少年関係団体3団体（日本ボーイスカウト群馬県連盟、ガールスカウト群馬県連盟、群馬県子ども会育成連合会）における活動に対して補助金を助成。（総額750千円） ・ 青少年健全育成に係る事業の実施、指導者育成を実施した。 ・ 子ども・若者支援協議会において相談を受けるとともに、子ども会KYT初級指導者養成講習会や、ジュニアリーダー研修会等を通じて人材育成を行う等、青少年及びその保護者等に寄り添う支援を行った。
5年間の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本ボーイスカウト群馬県連盟、ガールスカウト群馬県連盟、群馬県子ども会育成連合会への補助金による支援を通して、青少年健全育成の一助とすることができた。 ・ 各団体の運営を円滑化するべく必要な補助を行った。
5年間の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各組織に属していない一般の青少年も参加可能なイベントの実施について、推進していくことが望ましい。 ・ 関係機関が連携した、切れ目のない支援が必要である。

○中・高校生が将来の家族形成を含めた人生設計を考えるため、自らのライフデザインを考える機会の創出に取り組みます。	
令和5年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭科の授業において、青年期の自立や課題、子どもや高齢者の生活と福祉などの学習を通して、生徒の様々な人々に対する理解を深めるよう取り組んだ。 ・ 高大連携ライフデザイン支援事業 高校生を対象にライフデザインについて主体的に考える機会を提供するため、県内大学・高校の連携と協力により、高校生と大学生とのワークショップ形式の授業等を実施した。 ・ ライフデザインデジタル冊子活用促進事業（今から未来をプロジェクト2040） 大学生等12名で構成するプロジェクトチームの意見を基に構成したプログラムにより、県内高校・大学等8校にて出前講座を実施。また、デジタル冊子の活用や出前講座の成果発信・横展開を目的に広報用動画を制作した。成果物は、高校及び大学等の教職員向けに共有予定。 ・ ライフデザインセミナー（県職員による出前講座） 県内高校（2校）で、ライフデザインセミナーを実施した。
5年間の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭科の学習等を通じて、生徒が人生の各ライフステージの特徴と課題について学び、自立した生活を営むための意思決定やライフデザインの在り方について、将来の生き方の構想を描く一助とすることができた。 ・ 家庭や地域社会の果たす役割、共に支え合って生活することの重要性について生徒に認識させることができた。 ・ 本事業を通じ、異なる価値観や多様な人生に触れる機会を提供することで、高校生や大学生などの若者がキャリア形成や結婚、出産、子育てなどの将来を主体的に考えるきっかけとなり、思い描く未来の実現に向けて一歩踏み出す支援をすることができた。
5年間の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中・高校生は「キャリアデザイン」に比べ、自らの「ライフデザイン」を考える機会は充分であるとは言えないため、様々な機会の創出を進める必要がある。 ・ 自己実現、将来の家庭生活などについて考え、自立や家族・家庭の在り方、子供や高齢者の生活などについて理解し、共に協力していくことの重要性を理解する必要があり、引き続き継続して実施する必要がある。 ・ これまでの取組は、一部の高校や大学等においてモデル的に行ってきた。今後は、ライフデザインの取組を他の高校や大学等でも実施してもらえよう、広く横展開していくことが課題となる。

施策の柱19における指標の状況、5年間の総括、基本施策8に対する点検・評価委員会の主な意見、全体に対する点検・評価委員会の主な意見

指標の状況

指標		策定時		目標値	2024.4月末時点の最新値		進捗率	指標の状況に係る5年間の総括
項目	細目	数値	年度		数値	年度		
「青少年ボランティア養成事業」に係る事業への参加者数（県立青少年自然の家3施設＋青少年会館の合計）		584人	2017	650人	297人	2023	-435%	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症拡大により参加者が減少した。 令和3年度末に妙義青少年自然の家を廃止したため全体の参加者が減少した。

5年間の総括

・新型コロナウイルス感染症の拡大や少子化の影響もあり、ボランティア活動に取り組む中高生の数が減少している。また、ボランティア活動に興味をもつ中高生が減少しているのも事実であり、今後の広報活動等を工夫していく必要がある。

・実施しているボランティア養成や体験事業を何に生かすのかを考え、プログラムを精選し効率的な研修としていく必要がある。また、参加者が継続的にボランティアとして活躍できるよう連絡を密にとっていく必要がある。

基本施策8に対する「群馬県教育委員会の点検・評価委員会」の主な意見

評価できる点

・県立社会教育施設では、時代の流れも踏まえて、工夫しながら魅力ある展示や体験プログラム等を行っており、コロナ禍で入場者数の減少等が見られたものの、県民の生涯にわたる多様な学びの充実に資する取組を行っている。

課題

・社会教育施設では、SNSによる情報発信を一層強化していく必要がある。

・社会教育施設と学校教育との連携を強化し、施設の知見を子どもたちの課題解決に役立てられるような取組を一層推進していく必要がある。

全体に対する「群馬県教育委員会の点検・評価委員会」の主な意見

評価できる点

・第3期教育振興基本計画の5年間は、コロナ禍の影響により、当初想定し得なかった対応を数多く迫られた期間であったが、県教育委員会として、直面する課題に工夫を凝らしながら対応した。

・教師や学校に求められる役割・仕事が増え続ける中で、専門家を含めた「チーム学校」で対応する体制の構築が着実に進められている。

課題

・精神的な問題を抱える若者が少なくないため、子どもたちが自己肯定感・自己有用感を持てるような教育を一層推進してほしい。

・今後の点検・評価の実施に当たっては、「評価疲れ」が生じないよう、事務負担の軽減等も考慮する必要がある。